

院生ライフレポート

2026年
第4号(7・8月)

前期の学びを振り返って

入学してから、さまざまな授業を通して、自分の実践やこれまでの考えを改めて見つめ直す機会が多くありました。発表の準備では、同じグループのメンバーで「なぜそう考えたのか」「本当にこれでよいのか」など、何度も対話を重ね、発表に臨みました。こうした過程そのものが、大きな学びになったと感じています。

また、専門分野や校種の異なる学生同士で学ぶ中で、新たな視点からの意見を聞くことも多く、それぞれの考えをさらに深めることができました。一つの答えを求めるのではなく、様々な考えに触れながら、自分自身の問いを深めていくことの大切さを学びました。

8月初旬には最終課題を提出し、前期の授業を終えました。現在は、探究実習に向けた計画発表会を終え、それぞれの実習に向けて準備を進めています。コースによって実習先や内容は異なりますが、これまでの授業で得た学びを実習の中でも生かし、一つ一つの経験を自分自身の成長につなげていきたいと思っています。

厳しい暑さが続っていますが、暑さに負けず、後期の授業やこれからの研究に向けて一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。

今回も引き続き、教職大学院の1年生前期の講義を紹介します！

【金曜 2限】教育課程編成の基礎と課題(後藤先生・江島先生)

この授業では、教育課程やカリキュラムに関する基礎的な理論や実践的な課題、多様な学習プロセスモデルについて学びました。

ポスターセッションでは、これまで学んだことを生かし、理論に基づいたカリキュラムを構想し、「学校づくり」について考えました。理論を学ぶだけでなく、実際の学校づくりにどうつなげていくかを考える中で、さまざまな視点や価値観に触れることができました。最終回のリフレクションでは、活発な議論が交わされ、互いの考えを深め合うことができました。

#教育課程

#理論と実践

#対話から学ぶ

前期の授業を重ねる中で、立場や経験に関係なく意見を率直に伝えられる関係性が築かれ、充実した学びの時間を過ごすことができました。